

iシェアーズ
月次ETF*資金流入レポート



渡邊 雅史
ブラックロック・ジャパン株式会社
iシェアーズ事業部
ストラテジスト

ETFは世界中で約5000本が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されており、その規模は2.5兆ドル（約250兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生**しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流入の状況をまとめ、それらから見えてくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。

**ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

2015年2月のETF資金流入 ～欧州株への流入は継続～

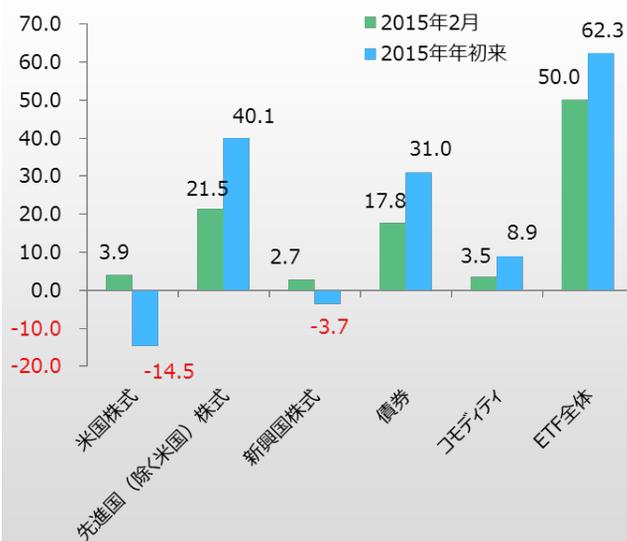
2015年2月の世界のETFへの資金流入は、500億ドル（約6.0兆円）の流入となりました。

ヨーロッパにおけるECBによる量的緩和、期待を上回った経済指標、弱含みのユーロ等の材料から欧州株式ETFへの資金流入は継続しており、115億ドルの資金流入が見られました。米国株ETFや新興国株式ETFへも資金が戻ってきており、2月は幅広い資産クラスのETFへの流入が見られました。また、株式市場が2000年5月以来の高値となった日本ですが、日本株ETFへは3ヶ月連続の資金流入が見られました。日本上場のETFだけでなく、米国に上場している日本株ETFにも資金が流入しており、様々な資金が入ってきていると考えられます。

債券のETFでは、再びハイイールド債券ETFへの流入が比較的活発となり、52億ドルの流入が見られました。また同様に投資適格債ETFにも45億ドルの流入がありました。

原油価格が安定してきたことで、原油関連のETFには17億ドルの資金流入が見られました。

【世界のETFの資金流入（十億ドル）】

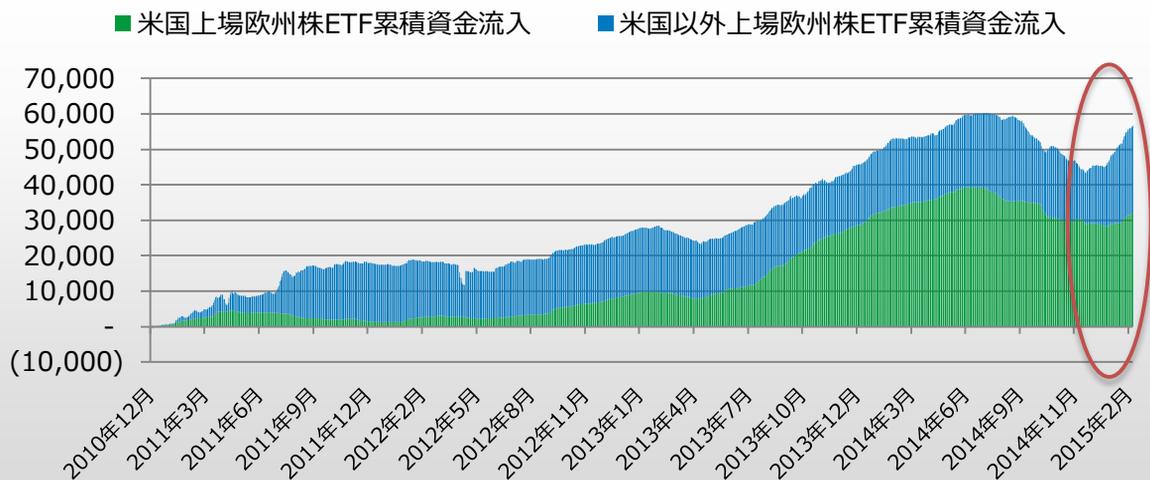


出所：ETP Landscape Feb 2015, BlackRock

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

ETFから見る世界の投資家動向 ～欧州株ETFへの資金回帰～

【欧州株ETFへの累積資金流入（2010年12月末～2015年2月末）（単位：百万ドル）】



*グローバルの各国市場に上場しているiSharesに加え、1bil USD以上の残高（2013年12月末時点）がある他社のETP（レバレッジ・インバース型を除く）のうち、データの取得が可能なものをユニバースとして分析。

出所：ブラックロック、ブルームバーグ

ギリシャに対する懸念から一時資金が流出していた欧州株ETFですが、2015年1月のECBの追加緩和決定後は顕著に資金が戻ってきています。米国が利上げの方向へ向かう中、米国株に比べて出遅れ感があったことで、一昨年の後半から欧州株ETFへの流入が加速していましたが、その後のギリシャ問題の再燃やECBの追加緩和の決定が遅れたことから昨年の後半は資金が流出していました。しかし、年明け以降の2ヶ月間で資金は戻ってきているように思われます。

特に、欧州に上場しているユーロ建てで取引できる欧州株ETFや、米国にドル建てで上場しているもののユーロの為替リスクをヘッジしたような欧州株ETFへの流入が活発で、市場ではECBの緩和によるユーロ安と株高が見込まれ資金が流入している模様です。足元では米国株よりも欧州株や日本株への資金流入が目立つようになってきており、金融政策の方向性の違いがETFの資金フローにも影響を与えていると考えられます。

ETFの主な投資リスクについて

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。優先株は金利上昇等により価値が減少する場合があります。また配当の支払いは保証されていません。満期到来、償還、繰上げ償還、転換などによってファンドの利回りの低下を招く場合があります。特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなります。不動産投資信託（REIT）への投資は経済状況の変化や信用リスク、金利変動の影響を受けます。

手数料、費用等について

【売買時の手数料】 当ETFを売買する際の手数料は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】 当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiシェアーズのウェブサイト（<http://www.blackrock.com/jp/ishares>）にて当ETFに関する情報を開示しております。